

## 第8回千葉県食品等安全・安心協議会(概要)

- 1 日 時 平成22年3月16日(火)午後2時から午後3時45分
- 2 場 所 千葉商工会議所 研修室A
- 3 出席者 羽田会長、北村副会長、萩原委員、文入委員、渡辺委員、石橋委員、  
薫田委員、岩村委員、小林委員、笹川委員、坂本委員、松本委員、中嶋委員  
13名
- 4 議 事
- (1) 平成21年度リスクコミュニケーションの結果について
  - (2) 平成21年食の安全・安心レポートの発行について
  - (3) 食品等の安全・安心の確保に関する基本方針に係る平成21年度事業・対策等実施結果報告(見込み)について
  - (4) 米穀関連法の改正及び新設について
  - (5) 千葉県食品等安全・安心協議会委員の任期について
- 5 会議要旨

### ◇ 羽田会長あいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日は、気候も良くなってきましたが、これから食中毒その他の本番がはじまるわけです。

私どもの大学でも、来年度から、環境省のエコチャイルドというプロジェクトが始まります。

これは、妊娠中から摂取する化学物質などの要因が子供の病気にどのようにかかわるかというプロジェクトで、千葉地域も対象に選ばれるだろうと思っています。

こういった情報も入れながら科学的な根拠に基づいた施策に繋がればと思っています。

今年度、この食品等安全・安心協議会で検討されてきたメインの事業として、この1、2月に開催されたリスクコミュニケーションがあります。

事務局からの報告を受けて御意見をいただくというのが、今日の議題の1でありまして、その他、米のトレーサビリティや委員の任期満了に伴う委嘱までの議題があり、2時間で纏めたいと思いますので、御協力及び活発な御意見をお願いします。

この議論が、次年度の食の安全・安心の取組みの方向性を決めるのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

### 【議事】

- (1) 平成21年度リスクコミュニケーションの結果について
  - ◇議題1について、議題集1ページに基づき、事務局より説明。
  - ◇質疑応答、意見交換
  - 羽田会長
    - ・ 鳥肉生産者の方で、半分ぐらいカンピロバクター陽性であったものを陰性にするのができたとのことですが、どういう方法を用いたのでしょうか？
  - 事務局
    - ・ 家畜保健衛生所の指導と検査のもと、清掃などにより外部から侵入させないという

衛生対策を実施したと聞いています。

○羽田会長

- ・ それでは、千葉市会場に参加された委員の感想をお願いします。

○坂本委員

- ・ この日は、若い学生さんが非常に多く良かったと思いました。

私も、会場でいただいたカンピロバクターに関する食の安全安心レポートを集合住宅の掲示版に貼らせていただきました。

リスクコミュニケーションを開く場合、今回のように将来、飲食店に勤めるような調理学校の生徒さんに来ていただいたのは有意義で、調理学校だけでなく、今後、中高生等に広げていけたら良いと思いました。あとは、一般消費者にどう周知していくかが課題だと思います。

○小林委員

- ・ 生産から加工、飲食店までの様々な関係者の方がいるという今回のプログラムは非常に良かったと思う。今回、若い参加者が多くて良かったと思う。今後、一般の方ももっと参加できると更に良いと思う。

意見交換では、全体的には、生肉は食べない方が良い、生食文化はない方が良いというような結論に至ったように思うのですが。

○北村副会長

- ・ カンピロバクターの特徴である、少ない菌数で発症すること・効果的な医療が無いこと・二次汚染が起りやすいということを見ると、馬刺については、一部のと畜場から生食用のものが出荷されているが、鳥は、そういう出荷は無いというのが現状で、相当難しいということでした。

○羽田会長

- ・ また、カンピロバクターは、子供が感染した場合、非常に重篤化することもあるというものでした。

それでは、松戸会場に参加された委員の感想をお願いします。

○松本委員

- ・ ブロイラーの生産から加工、飲食店の方までの取組みを見ただけでも良かったと思った。

通常、講義の形だが、リスクコミュニケーションという手法で行われ、会場に来られた方々も勉強になったと思う。

予防策も頭に入りやすく、また、消費者の声を伝えることもできて有意義だった。

アンケート結果を見て、消費者の参加がもっと増えて欲しいと思いました。そして、このすばらしい機会をもっと増やして、消費者に広く展開して欲しいと思う。

○岩村委員

- ・ 確かに、松本委員のおっしゃったように、主婦の方に参加していただきたいと思います。また、我々、食品事業者にも参加してもらいたいと思っており、今回、食品衛生協会からも参加させてもらったところですが、こういった機会を保健所単位で開催する等ができれば、広く啓発できるのではと感じました。

○事務局

- ・ 11月に開催した協議会で、「消費者の方にわかりやすいものを」と約束しました。

そして、羽田会長がおっしゃったように、お子さんが感染すると重篤化することとも考慮して、幼稚園、保育園にも開催案内を送付しました。

今後は、ターゲットを絞って開催して徐々に浸透させていくという方法もあると考えています。保健所では、事業者を対象とした講習会は実施していますが、消費者を

対象とした場合、どこまで集めることができるのかの検討が必要ですが、何か県民に浸透させていく方法を検討させていただきます。

○岩村委員

- ・ 私どもの協会には、食品衛生指導員制度がありまして、カンピロバクター、ノロウイルス、O157を中心とした講習会を実施しておりまして、業界に対しては、この指導員を活用しながら、普及活動を推進していきたいと思います。

○羽田会長

- ・ たばこの問題やAEDの使用法の普及には、お子さんを使うのが効果的で、お子さんが家に帰って親御さんに話すので、次回、親御さんが興味を持って聞きに来てくれます。

リスクコミュニケーションに関しても、小中高といった学校での授業や講演会などを利用して広げていくのが効果的だと思うのですが、そのあたりはいかがですか？

○事務局

- ・ 食品ではないのですが、動物愛護の啓発を、学校に行って実施しているので、やり方次第では、充分可能性はあると思います。

また、食品衛生出前講座というものも実施していますので、そういった取組みをからめて検討していきたいと思います。

○文入委員

- ・ 今回、友人も誘って参加したのですが、その友人はカンピロバクターを知らなかった。消費者の会に帰って尋ねてみても知っている人が少ない状態だったので、PRということ考えると「キャンピーに気をつけろ」というキャッチフレーズは良いなと思いました。

すし店で感染予防のため、「木のまな板使用」をやめているのは文化として惜しいが、仕方のないことかもしれない。

友人は、肉用、魚用、野菜用と区分するという話に感銘を受けて、消費者の会でも来年度、この講座を開催しようという話になりました。

こういった話は、保健所に申し込めば受けていただけますか？

「主婦」という表現があるが、今は男性でも台所に立つ人も多く、「主婦」という表現が、少し気になった。

○事務局

- ・ 保健所に話していただいて、「こういうテーマでこういう形」と伝えていただければ対応できます。

○羽田会長

- ・ それでは、印旛会場に参加された委員の感想をお願いします。

○中嶋委員

- ・ 先生の講演はわかりやすく、二次汚染対策も具体的で良かったと思います。

日ごろ、見ることができない牛と鶏が食肉になるまでの過程について、現場の映像を見ることができたのが特に良かったと思いました。

その後の意見交換で、会場で鳥の処理をされている方がいらして、他の処理方法があることもわかりました。

手洗い・食材の扱い・調理の順番などの予防法もよくわかりました。

実際、食に関わる方の参加が多かったのも、それで男性が多かったのかなとも思いました。二次汚染対策とか、家庭に浸透させるようなことを今後も、続けていきたいと思いました。

○北村副会長

- ・ 先ほど、別の処理法という話がありましたが、多くの処理は、鳥の内臓を先に抜いていく中抜きという方法ですが、内臓からの汚染を防ぐために外から肉を剥いでいく外はぎという方法があります。しかし、これは手作業が増えるため大量に処理できません。

また、参加者への呼びかけについては、時間的に足りなかったという面があったかと思しますので、今後、計画は、早いうちに始めて、皆さん方と話ながらやっていきたいと思えます。

私は、食の安全を皆さんに知っていただくためには、今回のように、わかりやすい言葉で、視覚的にもわかりやすいものが必要だと思っています。

○萩原委員

- ・ 私も食べるのが好きで、グルメ番組等を見るのですが、生肉料理等が出てきたりします。一般に、鮮度が良いほど安心して食べられるという思い込みがあり、カンピロバクターに関しては、私もショックを受けました。

リスクコミュニケーションは良い方法であるが、たくさんの人に知ってもらいたい場合、新聞、ラジオ、テレビ、インターネットを使った情報発信の検討が必要だと思います。

予算が限られている中、難しいとは思いますがマスをつかうこと、マスもマスなりにそれを見た方の反応を取ることができるので、検討が必要だと思います。

○羽田会長

- ・ サルモネラとカンピロバクターとで、対策が違うのでしょうか？

○北村副会長

- ・ サルモネラ、カンピロバクター、0157といったものが食肉に多いわけですが、基本的には菌をつけない・増やさない・やっつけるということが大切で、魚ならビブリオが多いというように、食品ごとについている細菌が違うということを整理して、対策を講じていけば、どの食中毒もある程度、防ぐことができると思います。

【議事】

(2) 平成21年食の安全・安心レポートの発行について

◇議題2について、議題集2ページに基づき、事務局より説明。

◇質疑応答

特になし

【議事】

(3) 食品等の安全・安心の確保に関する基本方針に係る平成21年度事業・対策等実施結果報告(見込み)について

◇議題3について、議題集3ページに基づき、事務局より説明。

◇質疑応答、意見交換

○中嶋委員

- ・ 食に関する学習ノートの増刷・配布の予算が無くなっているが、継続というのは？

○学校安全保健課

- ・ 21年度までは、紙媒体と県ホームページで公開をしておりましたが、県ホームページからダウンロードできる形にして紙媒体での配布を中止した関係で、予算措置がなくなっています。

○坂本委員

- ・ 食品の検査結果は公開されているのでしょうか？

○事務局

- ・ 県の衛生指導課のページに掲載されています。

○ 羽田会長

- ・ BSEの全頭検査の継続についてはどうですか？

○ 事務局

- ・ 全国で22年度に、検査を止めるという自治体はありません。

科学的には、必要ないということでも、県民の皆さんの不安がまだ払拭されていないということと、流通の問題で、千葉県だけが検査をやめることがネックになってきます。

また、あと3年すると、日本がBSEの清浄国として、OIEに認定されると、検査が変わることが予想されるので、それまで継続するというスタンスです。

○ 土肥課長

- ・ 過去に、千葉県でBSEのリスクコミュニケーションを実施しましたが、他県でもやはり、アンケートを実施すると、6割以上は全頭検査を要望する結果になります。

全頭検査の必要性が少ない部分もあるが、消費者の方々の不安という面で、ゼロリスクまでは行ききれない中で全頭検査を継続している現状です。

○羽田会長

- ・ それは、我が国だけの問題ではなく、アメリカでも、マンモグラフィの必要性という話で、乳癌患者を見捨てるのかという議論になってしまいますので、どういふものを根拠にしてやるべきかということも将来的には必要かなと思います。

○笹川委員

- ・ 千産千消について、私の会社も銚子の方で、農協さんの協力で、常設で県内産品を提供しています。

もっと、千葉県産の農産物の売り込みをしていただければと思います。

○生産販売振興課

- ・ これは、農林水産部の中心課題として進めることになっております。農業の商売としては、県内だけでなく全国の皆さんに食べていただきたいのですが、まずは、地元でとれた新鮮なものを県民の皆さんに食べていただきたいと考えております。

【議事】

(4) 米穀関連法の改正及び新設について

◇議題4について、議題集11ページに基づき、事務局より説明。

◇質疑応答

○土肥課長

- ・ 加工米として輸入されたものと国産を混合使用した場合は？

○安全農業振興課

- ・ 国から正式に聞いていないが、おそらく使用量順に伝達することとなる。

○土肥課長

- ・ 伝達とは表示か？

○安全農業振興課

- ・ 納品書に産地・数量等を入れてリレーすることになる。

【議事】

(5) 千葉県食品等安全・安心協議会委員の任期について

◇議題5について、議題集 ページに基づき、事務局より説明。

◇質疑応答

特になし

○羽田会長

- ・ 最後に、何か御意見などはありませんか。

○坂本委員

- ・ マスメディアを利用してという話ですが、流してほしいことは流してくれないケースがあるのでは？

○萩原委員

- ・ ニュースには、お金を使って取材して流すものと、お金をいただいて流すものがあります。食の話も、一般の取材としてとりあげられるような行事になるように工夫し、利用すれば良いのではないかと考えます。

○坂本委員

- ・ リスクコミュニケーションの開催情報は新聞には掲載されましたか？

○事務局

- ・ 残念ながらされていません。

○文入委員

- ・ リスクコミュニケーションも、行政が単独で開催するのではなく、市民団体を巻き込んで共催するような方法は取れませんか？

○北村副会長

- ・ 会場費や印刷費といった基礎的な経費がどうしても必要となるので、誰がどう負担するかという問題も出てきます。例えば、「こういうものを用意したので、県で来てくれないか？」といったアプローチも必要かと思います。

事業者は、反対意見であっても消費者の声を聞きたいというスタンスで、会費を払ってでも参加したいと思います。そういう面で、日本は、リスクコミュニケーションが進んでいるとは言いがたいのですが、みんなに声をかけて、「こういう用意をしたから県で会場だけ作ってもらえないか？」というような依頼を皆さんで出していないと、「県はやってくれない」と言うだけでは何も進まないと思います。

以上